

フレキシブル継手共通 保守点検

ゴム製フレキシブル継手は、使用状況により耐用年数が異なります。
耐用年数を過ぎると流体が漏れるなど、不具合が発生する可能性が高まります。
それら製品の不具合、設置状態の異常などの早期発見のため、保守点検を実施するようお願いいたします。

1) 点検の種別と実施時期

点検種別	実施時期	実施内容
a. 竣工時点検	竣工時	使用条件が守られ正しく施工されているかを確認してください。
b. 通常点検	年2回以上	異常の早期発見と事故の防止を図るために、製品やその使用状況および設置状況を確認してください。
c. 定期点検	竣工後5年毎	通常点検に比べ、より詳細に異常の有無を確認してください。
d. 臨時点検	災害直後	大きな地震や火災および浸水などの災害発生時は速やかに製品への影響の有無を確認してください。必要に応じてサンプリングを実施してください。

2) 点検項目

点検種別	点検箇所	点検項目	点検方法
a. 竣工時点検	接合部	1. ボルト・ナットの緩みはないか 2. パッキン面からの漏れはないか	触診 触診／目視
b. 通常点検	本体外面	1. 外面ゴムに傷、亀裂などが生じてないか	目視
c. 定期点検		2. 一部に異様な膨らみがないか	触診／目視
d. 臨時点検		3. 外面ゴムにボルト・ナットの頭が接触または、喰込んだ跡はないか	目視
		4. 変位量が製品許容値を超えていないか (a, c, dのみ)	計測

3) 異常現象とその対策

各点検において異常が認められた場合は、下表を参考に処置対策を行ってください。

該当部	異常現象	原因	対策	処置
接合部	パッキン面から漏れがある	1) 許容変位量を超えている	1) 配管修正	漏れが止まらない時は、交換する フランジパッキン面に異常が生じているものは交換する
		2) 許容圧力を超えている	2) 許容圧力以下にする	
		3) 異常な圧力変動がある	3) 圧力変動を少なくする	
		4) 固定の不備・破損	4) 固定をやり直す	
		5) ボルトの緩み	5) 水抜き後、増締めする	
本体外面	本体部から漏れている	破損		交換する
	外面ゴムに傷・亀裂などが生じている	外的要因	補強層まで達していない場合は、経過観察	補強層まで達している場合は、交換する
	一部に異様な膨らみがある	外面ゴムと補強層の間に流体が侵入		交換する
	作動時に異常変形を生じ、ボルト・ナットの頭が外面ゴムに接触または喰込んだ跡がある	1) 許容変位量を超えている 2) 異常圧力が生じている	1) 配管修正 2) 許容圧力以下にする	異常に変形した場合は、交換する
本体内面	内面ゴムに傷・亀裂、などが生じている	流体によるエロージョン		交換する
	内面ゴムに異常な摩耗が生じている			
	内面ゴムに局所的な膨らみがある	内面ゴムと補強層の間に流体が侵入		